

# 平成26年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告

太宰府市教育委員会

平成26年4月22日に実施した「全国学力・学習状況調査」の結果が出ましたので報告します。なお、公表にあたっては、「学校の序列化」や「競争の激化」に十分配慮しております。

## 1 全国学力・学習状況調査全般について（資料1）

- (1) 調査の目的
- (2) 調査対象
- (3) 調査内容
- (4) 調査日時
- (5) 児童・生徒数

## 2 調査結果の取り扱いについて（資料2）

- (1) 学力調査結果の学力は、「生きる力」を支える学力の一部です。
- (2) 太宰府市平均正答率は、全国と福岡県の平均正答率と対比して本年度より公表しています。
- (3) 太宰府市小中学校全体の、国語・算数（数学）の結果は、資料2のとおりです。

## 3 分析、活用について

- (1) 各小中学校において、「学力・学習状況調査の分析・活用」に関する委員会等を設置し、各学校の課題や取り組みを明確にしています。
- (2) 太宰府市教育委員会としては、学校訪問や校内研究の推進等で支援をしています。また、各学校の分析結果や取り組みに関しても支援を行います。
- (3) 国や県の結果や取り組みを参考に進めていきます。
  - ア 県は、分析方法や結果と課題、及び授業改善点を示しており、この資料を生かします。
  - イ 児童・生徒の調査結果については、全国、福岡県及び太宰府市の結果分析を各学校に提供し、それぞれの学校が学力の向上の取組の重点を明確にできるようにします。

(資料 1)

## 平成 26 年度 全国学力・学習状況調査 調査結果のポイント

### ○調査の概要

#### (1) 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

#### (2) 調査の対象学年

小学校第 6 学年、特別支援学校小学部第 6 学年

中学校第 3 学年、中等教育学校第 3 学年、特別支援学校中学部第 3 学年

#### (3) 調査の内容

##### ①教科に関する調査（国語，算数・数学）

- ・主として「知識」に関する問題
- ・主として「活用」に関する問題
- （
  - ・国語 A，算数・数学 A：主として「知識」に関する問題を中心とした出題
  - ・国語 B，算数・数学 B：主として「活用」に関する問題を中心とした出題

##### ②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

- ・児童生徒に対する調査
- ・学校に対する調査

#### (4) 調査の方式

悉皆調査

#### (5) 調査日時

平成 26 年 4 月 22 日（火）

#### (6) 4 月 22 日に調査を実施した学校・児童生徒数

##### 【小学校調査】

	対象学校数	学校数	実施率
公立学校	20218校	20218校	100.0%
国立学校	75校	75校	100.0%
私立学校	218校	102校	46.8%
合計	20511校	20395校	99.4%
太宰府市	7校	7校	100.0%

##### 【中学校調査】

	対象学校数	学校数（実施率）	実施率
公立学校	9812校	9812校	100.0%
国立学校	81校	81校	100.0%
私立学校	755校	355校	47.0%
合計	10648校	10248校	96.2%
太宰府市	4校	4校	100.0%

## (資料2)

### 国語、算数・数学の結果

#### 1 全国学力・学習状況調査結果（教科に関する正答率）

	小学校				中学校			
	国語 A	国語 B	算数 A	算数 B	国語 A	国語 B	数学 A	数学 B
太宰府市平均正答率	73.4	54.4	78.9	57.6	81.3	52.8	72.1	64.5
全国平均正答率	72.9	55.5	78.1	58.2	79.4	51.0	67.4	59.8
福岡県平均正答率	72.0	54.4	77.7	57.4	78.4	49.6	65.6	57.8

- ・ 小学校の国語B、算数Bの正答率が全国平均を下回っている。
- ・ 中学校ではすべての教科区分において正答率が全国平均を上回っている。
- ・ 国語、算数・数学における主な結果は、これまでの調査と同様、主として「活用」に関する問題（B問題）では、記述式問題を中心に正答率の低い問題がある。
- ・ 必要な情報を取捨選択して説明することなどに課題が見られる。

#### 2 国語について

小学校においては、活用の問題及び記述式の問題で課題が見られる。特に主張や根拠を明確にした説明や話し合いなど、目的を明確にした言語活動の充実が求められる。

中学校においては、全国平均を若干上回っている。今後も継続して、日常事象との関連をもとに自らの考えを明確にして記述する学習を充実することが求められる。

小学校、中学校ともに国語Aの正答率は全国平均以上であり、基礎・基本として身に付けた言語事項について、知識で終わらせず、それを活用させるような学校での授業改善が求められる。

#### 3 算数・数学について

小学校においては記述式の問題において、課題がみられる。特に、順序よく筋道立てて考えることの指導改善が求められる。

また、小学校においては、基礎的な計算技能の習熟が求められる。結果（答え）の正否だけでなく、目的や問題解決のプロセスを重視する活動が求められる。

中学校においては、数学A、数学Bともに全国平均を5ポイント近く上回っており、顕著に改善がみられる。今後も継続して、日常事象との関連を考える学習や、数学的な事象を式に表す学習を充実することが求められる。